

氏名	横田 香世 (よこた かよ)
学位の種類	博士(看護学)
学位授与番号	甲 第 11 号
学位授与年月日	平成 31 年 3 月 6 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項該当
学位論文題名	糖尿病患者の足病変予防を促す「セルフフットケア教育プログラム」の効果の 検証  ( Clinical evaluation of a self-foot-care educational program for prevention of diabetic foot disease)
論文審査委員	(主) 教授 赤澤 千春 教授 津田 泰宏 教授 林 優子

### 学位論文内容の要旨

#### 〈緒言〉

厚生労働省国民健康栄養調査(2007年)によると、日本における糖尿病治療者の足壊疽合併率は0.7%と報告されている。糖尿病足病変は、放置すると足潰瘍から壊疽に至り、最終的には足切断に至る可能性もあり、患者のQOLに大きく影響する。足病変予防のためのフットケア教育はハイリスク状態に至ってでは遅く、糖尿病と診断されてから早期からの教育が重要である。

フットケアの介入研究の動向として、海外では足潰瘍を予防するための研究もしくは足潰瘍や足切断患者の再発予防のための研究が多い。わが国では、足病変予防を促す系統的なフットケア教育に関する研究がなく、無作為化比較試験(randomized controlled trial: RCT)による介入研究も少なかった。国内外の文献検索の結果から、フットケア教育に関与する概念として、「フットセルフケア行動」「セルフエフィカシー」「個別教育プログラム」「教育介入効果」「フットケア知識」「フットケア認識」「足の清潔度」「フットケアの習慣化」「セルフモニタリング効果」「足への意識・認識」「足病変予防の不備」「フットケアへの看護介入効果」「身体に働きかけるケア」が明らかになった。

これらのフットケア教育に関する概念の内容を整理した結果、今後、患者自身が足を自らケアをして守ることを重点においた、より効果的なフットケア教育のための看護支援モデルとして、【患者自身が足病変予防の必要性を認知し、自信をもってフットケア行動がとれるように支援】【足病変予防のためにフットケアに関する適切な情報を提供】【個別性に合わせたセルフフットケア方法の提供】【自分自身で足の状態を観察し、足の変化に気付くためのセルフモニタリング】【足病変予防のためのセルフフットケアの評価】の5項目の提案に至った。患者自身が足の状態を自覚し、自らフットケア行動がとれるように、患者の足病変予防に対する行動を高める教育が重要であると考えられた。

これらの結果から、患者自ら足のケアを継続的にを行い、足病変予防行動を高めることをめざした「セルフフットケア教育プログラム」考案し、その効果を検証することが課題であると考えた。その効果を実証されれば、臨床場において、糖尿病患者の足病変予防を重点化した効果的な看護実践につながるのではないかと考えた。

#### 〈目的〉

糖尿病足病変の発症及び重症化予防のために、2型糖尿病患者に足病変予防を促す「セルフフットケア教育プログラム」を考案し、その効果を検証することである。

#### 〈方法〉

セルフフットケア外来に通院する40～75歳以下の2型糖尿病患者、介入群29名と対照群26名を対象に無作為化比較試験を行った。介入群には「セルフフットケア教育プログラム」を月1回計4回実施し、対照群にはパンフレットを用いた通常のフットケア教育を1回行った。足の清潔度を主要評価項目として、足の症状・状態、セルフフットケアの自信、セルフフットケア行動を副次的評価項目として評価した。介入前と6ヶ月後に足の清潔度、足の症状・状態について群別に分析した。さらに、介入前、3ヶ月、6ヶ月後にセルフフットケアの自信、6ヶ月後にセルフフットケア行動について群別に分析した。

#### 〈結果および結論〉

2群間において、足の清潔度、足の症状・状態に有意差がみられた。セルフフットケアの自信は両群間に有意差はなかったが、介入群に変化が見られた。セルフフットケア行動においても介入群に変化が見られた。2型糖尿病患者の足病変予防を促す「セルフフットケア教育プログラム」は有効であり、糖尿病足病変の発症及び重症化予防に役立つ可能性があることが示唆された。

### 論文審査結果の要旨

本研究の目的は、2型糖尿病患者に足病変予防を促す「セルフフットケア教育プログラム」の効果を検証することを目的に2つの段階(3部構成)で行った研究である。

第1部では、糖尿病患者の足病変予防のためのフットケア教育の動向を明らかにし、フットケア教育に関与する主要概念と予防

的介入の必要性を明らかにした。フットケア教育に関する研究を整理した結果、今後、患者自身が足を自らケアをして守ることを重点においたより効果的なフットケア教育のための看護支援モデルとして【患者自身が足病変予防の必要性を認知し、自信をもってフットケア行動がとれるように支援】【足病変予防のためにフットケアに関する適切な情報を提供】【個別性に合わせたセルフフットケア方法の提供】【自分自身で足の状態を観察し、足の変化に気付くためのセルフモニタリング】【足病変予防のためのセルフフットケアの評価】の5項目を提案した。これらの結果から、患者自ら足のケアを継続的に行い、足病変予防行動を高めることをめざした「セルフフットケア教育プログラム」考案し、その効果を検証することを課題とした。

第2部では、糖尿病足病変の発症及び重症化予防のために、2型糖尿病患者に足病変予防を促す「セルフフットケア教育プログラム」を考案し、その効果の検証を行った。セルフフットケア外来に通院する40～75歳以下の2型糖尿病患者、介入群29名と対照群26名を対象に無作為化比較試験を行った。介入群には「セルフフットケア教育プログラム」を月1回計4回実施し、対照群にはパンフレットを用いた通常のフットケア教育を1回行った。介入前と6ヶ月後に足の清潔度、足の症状・状態について群別に分析した結果、2群間で介入群の方で効果的な反応がみられた。

第3部では、介入前、3ヶ月、6ヶ月後にセルフフットケアの自信、6ヶ月後にセルフフットケア行動について群別に分析した。セルフフットケアの自信は両群間に有意差はなかったが、介入群に変化が見られた。セルフフットケア行動においても介入群に変化が見られた。以上のことより2型糖尿病患者の足病変予防を促す「セルフフットケア教育プログラム」は有効であり、糖尿病足病変の発症及び重症化予防に役立つ可能性があることが示唆された。

以上により、本論文は本学大学院学則第11条2に定めるところの博士(看護学)の学位を授与するに値するものと認める。

(主論文公表誌)

Kayo Yokota, Yuko Hayashi, Junichi Kurata, Atsuyo Fujita(2019), Health, 11, 9-19.